OpenAI DevDay 2026がもたらす知財実務への影響とデータ活用戦略

OpenAI DevDay 2026では新機能が発表されたが、知財実務では製品・経路ごとのデータ保持・保護仕様を正確に把握し、未公開発明の流出を防ぐデータ経路設計が最重要となる。

1. 製品・経路別のデータ機密性判定

推奨

未公開発明・出願前データは「API + ZDR/PSP」に限定する



OpenAI側がデータを保持・閲覧しないため未公開発明を安全に扱える。

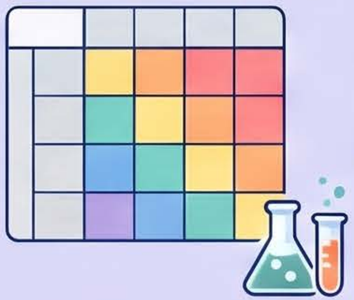
注意

常時稼働エージェント「dots」や「Agents API」への未公開発明投入は回避



Agents APIはZDR非対応で、dotsは人間レビューの可能性がある。

2. 知財部門が着手すべき対応ロードマップ



【短期：～3か月】

「機密区分×利用経路マトリクス」の作成とパイロット検証

データの機密性に応じて利用経路を明確化し、公開情報の調査業務で試行する。



【中期：～12か月】

「AI関与発明記録」のルール化と最終判断者の明確化

人間による着想過程をログ保存し、AI出力は人間が最終検証する体制を組む。

Gemini Notebook